

昭和5年、城址にあった県庁が火事のため全焼しました。再建するにあたっては、元の場所  
にという意見もありましたが、最終的には城址の北（現在地）に新築移転することに決定しま  
した。城址はここに明治以来の県庁敷地としての役目を終えたのです。

さて、都市計画による破壊の危機を脱し、そして県庁敷地としての役目も終えた城址は、風  
致地区として、永く後世まで保存されることに決定しました。昭和8年に都市計画風致地区に  
指定され、現在に至ります。風致地区指定の理由は次の通りです。

とやまじょうしいたい ゆうすい しぜん けいしゅ と おお とやましん おうじゃく しの  
富山城址一帯ハ、幽邃ニシテ自然ノ景趣ニ富ムモノ多ク、カツ富山市民ガ往昔ヲ偲  
ゆいいつ こせき しか し はってん ともな ゆいしょ いせき はめつ  
ブ唯一ノ古跡タリ。然ルニ、市ノ発展ニ伴イ、ヤヤモスレハ由緒アル遺蹟ハ壊滅セ  
ラルル恐レアルヲモッテ、(中略) ふうちちく してい けいしゅ いじほいく  
ラルル恐レアルヲモッテ、(中略) 風致地区ニ指定シ、景趣ヲ維持保育セムトス

富山城址一帯は、物静かで奥深く、趣きがある。さらに、富山市民がいにしえを偲ぶことが  
できる唯一の遺跡である。しかし、市の発展に伴って、由緒ある遺跡は破壊される恐れがある  
ため、風致地区に指定して保存する。

なお、富山城址は昭和14年に都市計画公園に指定され、その翌年整備の上、「富山公園」と  
して開園しました。しかし同20年8月、空襲により富山市街は焦土と化し、城址にあった木々  
や建物も全て焼失してしまいました。

### こんなこともありました その5

昭和11年、神通川<sup>はいせん ち</sup>廢川地（旧神通川の埋  
立地）を会場として、日満産業大博覧会<sup>にちまん</sup>が開  
催されました。その際、会場の一部として城  
址に子供用の遊具を揃えた「子供の国」が建  
設されました。以前から、風致地区に指定さ  
れた城址を公園化するための調査が進められ  
ていました。そのため、この機会に児童用の  
運動器具などの設備を整えることができ、博  
覧会終了後も公園の施設として残すことがで  
きたのです。



堀に浮かぶボート

現在の城址公園自由広場の南から、全日空ホテルの方向を見たものです。会期中、堀には児童用ボートが浮  
かべられました。